

**2021年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)**

2020年11月12日

上場会社名 三菱製紙株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 3864 URL <https://www.mpm.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 立藤 幸博  
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経理部長 (氏名) 及川 浩典 (TEL) 03-5600-1407  
 四半期報告書提出予定日 2020年11月13日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家、証券アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

**1. 2021年3月期第2四半期の連結業績(2020年4月1日~2020年9月30日)**
**(1) 連結経営成績(累計)**

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第2四半期	78,672	△19.2	△2,386	—	△2,128	—	△2,365	—
2020年3月期第2四半期	97,333	△2.9	512	—	483	—	93	—

(注) 包括利益 2021年3月期第2四半期 △1,720百万円(—%) 2020年3月期第2四半期 △288百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第2四半期	△52.96	—
2020年3月期第2四半期	2.09	—

**(2) 連結財政状態**

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期第2四半期	215,912	58,588	27.1
2020年3月期	212,217	60,527	28.5

(参考) 自己資本 2021年3月期第2四半期 58,573百万円 2020年3月期 60,525百万円

**2. 配当の状況**

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	—	0.00	—	5.00	5.00
2021年3月期	—	0.00			
2021年3月期(予想)			—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

2021年3月期期末の配当予想につきましては未定です。決定次第お知らせいたします。

**3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日~2021年3月31日)**

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通期	165,000	△15.2	△1,000	—	0	△100.0	△1,000	△22.39

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年3月期2Q	44,741,433株	2020年3月期	44,741,433株
② 期末自己株式数	2021年3月期2Q	83,016株	2020年3月期	82,401株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2021年3月期2Q	44,658,784株	2020年3月期2Q	44,660,452株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計上の見積りの変更)	8
(セグメント情報等)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間は、新型コロナウイルスの感染拡大により日本経済および世界経済は急激に悪化し、当社グループを取り巻く環境も、外出制限・イベント中止などで、印刷・情報用紙の需要減退が加速し、画像出力用のイメージング分野も打撃を受けるなど、厳しい事業環境で推移いたしました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の連結売上高は786億7千2百万円（前年同四半期比19.2%減）となりました。

損益面では、固定費削減などのコストダウンや原燃料価格安の効果はありましたが、生産販売数量の減少の影響が大きく、連結営業損失は23億8千6百万円（前年同四半期は連結営業利益5億1千2百万円）、連結経常損失は21億2千8百万円（前年同四半期は連結経常利益4億8千3百万円）となりました。親会社株主に帰属する四半期純損失は23億6千5百万円となりました。

このような状況下、当社グループは、事業運営のための感染防止策を取るとともに、需要動向に合わせた生産体制の整備を実施し、2年目に入った「新中期経営計画」（2019年4月～2022年3月）の3つの重点戦略、

- ① 王子グループとのアライアンスによる強固な経営基盤の確立
- ② 既存事業の再構築と充実
- ③ 新たな収益の柱の育成による事業基盤の多様化

に精力的に取り組む、基本方針である「新しいステージに立った事業基盤の強化と多様化」を進めています。

## (紙・パルプ事業)

国内市場につきましては、印刷用紙、情報用紙ともに製品価格水準は維持しましたが、需要の減退に加え新型コロナウイルス感染拡大の影響が大きく、販売数量、金額ともに減少しました。輸出につきましても販売数量、金額ともに減少しました。需要減退が想定以上に加速していることを受け、減産を継続し需給引き締めを図ってまいりました。

欧州子会社につきましては、コロナ禍の影響等を受け各主力製品の販売数量が減少するとともに、需給関係も軟化し、加えて為替の影響もあり、販売金額は減少しました。

市販パルプは、低迷する市況環境の下、販売数量、金額ともに減少しました。

この結果、紙・パルプ事業全体の売上高は613億8千5百万円と、前年同四半期比16.7%減となりました。

営業損益は、前年同四半期の1億2千6百万円の利益から14億4百万円減少し、12億7千7百万円の損失となりました。

コロナ禍の影響による需要動向は、第1四半期末を底に回復傾向にあります。長期的な需要減退を前倒した形で、事業環境は厳しさを増しています。これに対し、需要動向に合わせた生産体制最適化と在庫水準適正化を進め価格水準の維持を図ってまいります。さらに、王子グループとの協業強化等により、物流費削減に取り組むとともに、晒クラフト紙や機能板紙の拡販、脱プラスチック事業としてのバリアコート紙の品揃え拡大などを進めて製品ポートフォリオの転換を加速し、早期に収益の安定化を目指してまいります。

## (イメージング事業)

コロナ禍の影響は世界各国で旅行やイベントの機会を激減させ、国内及び海外市場ともに、画像出力用途を中心とする写真感光材料やインクジェット用紙の需要は大きく落ち込み、販売金額は減少しました。

この結果、イメージング事業全体の売上高は127億4千3百万円と、前年同四半期比23.7%減となりました。

営業損失は、前年同四半期の1億9千7百万円から、損失幅が13億9千4百万円拡大し、15億9千2百万円の損失となりました。

販売数量の減少、生産設備の稼働率低下によるコスト上昇などのマイナス要因が大きく、業務用途のインクジェット用紙の新規開拓、アルコール除菌液など感染症予防製品の販売、一時帰休の実施や固定費の削減に努めましたが、カバーするには至りませんでした。

富士フイルム㈱とのアライアンスによる生産体制の効率化に取り組む一方で、印刷感材事業の販売体制の効率化を進め、世界各国の景気刺激策に柔軟に対応しながら、製品ラインアップの拡充と海外顧客との協業体制構築による販売力強化を推進し、収益の確保に取り組んでまいります。

#### (機能材事業)

機能材料につきましては、バッテリーセパレータが好調に推移し、衛生関連分野のニーズの高まりからエアフィルター、水処理膜支持体が増加しましたが、リライトメディアや建材用の不織布が減少し、販売金額は減少しました。

化学紙につきましては、建築用途等でコロナ禍の影響が大きく、主力の化粧板原紙やテープ原紙、壁紙用裏打紙等が減少し、販売金額は減少しました。

この結果、機能材事業全体の売上高は69億5千7百万円と、前年同四半期比15.0%減となりました。

営業利益は、前年同四半期の4億5千7百万円から6千6百万円増加し、5億2千4百万円となりました。

販売金額の減少はありましたが、固定費削減などのコストダウン効果や原燃料価格安により、前年同四半期に比べ増益となりました。

引き続き、水処理膜支持体の新規ユーザー獲得やMBR（膜分離活性汚泥法）膜用への展開、高耐熱のバッテリーセパレータの拡販、化粧板原紙やテープ原紙等の新規拡販ならびにコストダウンに注力してまいります。

#### (倉庫・運輸事業)

倉庫・運輸事業の売上高は36億3千7百万円と、前年同四半期比8.7%減となりました。営業利益は前年同四半期の6千7百万円から2千1百万円減少し、4千5百万円となりました。

#### (その他)

工務関連子会社とスポーツ施設運営子会社の売上減少等により、売上高は27億6千5百万円と、前年同四半期比39.8%減となりました。営業損益は前年同四半期の7千5百万円の利益から1億1千万円減少し、3千5百万円の損失となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末の資産は、有形固定資産やたな卸資産等の減少はありましたが、受取手形及び売掛金や投資有価証券等の増加により前連結会計年度末に比べ36億9千4百万円増加し、2,159億1千2百万円となりました。

負債は、有利子負債の増加等により前連結会計年度末に比べ56億3千4百万円増加し、1,573億2千3百万円となりました。

純資産は、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上等により前連結会計年度末に比べ19億3千9百万円減少し、585億8千8百万円となりました。

自己資本比率は、前連結会計年度末に比べ1.4ポイント減少し、27.1%となりました。

### (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年3月期の連結業績予想につきましては、本日（2020年11月12日）公表いたしました「2021年3月期業績予想及び配当予想に関するお知らせ」をご参照ください。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	9,260	10,747
受取手形及び売掛金	31,358	34,853
商品及び製品	30,138	27,455
仕掛品	7,066	7,048
原材料及び貯蔵品	11,278	12,004
その他	3,629	4,046
貸倒引当金	△157	△142
流動資産合計	92,576	96,013
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	24,459	23,796
機械装置及び運搬具(純額)	43,816	41,955
土地	21,898	21,788
建設仮勘定	467	817
その他(純額)	3,066	2,879
有形固定資産合計	93,708	91,238
無形固定資産		
その他	409	1,651
無形固定資産合計	409	1,651
投資その他の資産		
投資有価証券	15,763	17,377
その他	9,833	9,704
貸倒引当金	△74	△74
投資その他の資産合計	25,523	27,008
固定資産合計	119,641	119,898
資産合計	212,217	215,912

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	22,082	16,861
電子記録債務	3,934	3,608
短期借入金	64,267	64,880
コマーシャル・ペーパー	4,000	14,000
未払法人税等	431	327
その他	10,804	11,060
流動負債合計	105,519	110,737
固定負債		
長期借入金	33,495	32,997
退職給付に係る負債	9,423	9,320
資産除去債務	883	884
その他	2,366	3,383
固定負債合計	46,169	46,585
負債合計	151,689	157,323
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	36,561	36,561
資本剰余金	8,555	8,555
利益剰余金	13,719	11,135
自己株式	△152	△152
株主資本合計	58,684	56,100
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,206	2,015
為替換算調整勘定	1,095	910
退職給付に係る調整累計額	△461	△452
その他の包括利益累計額合計	1,840	2,473
非支配株主持分	2	15
純資産合計	60,527	58,588
負債純資産合計	212,217	215,912

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
売上高	97,333	78,672
売上原価	82,816	68,702
売上総利益	14,516	9,969
販売費及び一般管理費	14,004	12,356
営業利益又は営業損失(△)	512	△2,386
営業外収益		
受取利息	27	19
受取配当金	257	293
持分法による投資利益	475	529
その他	275	207
営業外収益合計	1,035	1,049
営業外費用		
支払利息	516	390
為替差損	298	93
貸船に係る損失	—	164
その他	249	142
営業外費用合計	1,064	791
経常利益又は経常損失(△)	483	△2,128
特別利益		
固定資産処分益	5	11
投資有価証券売却益	47	6
受取補償金	19	—
その他	0	—
特別利益合計	71	17
特別損失		
固定資産処分損	552	286
その他	61	68
特別損失合計	614	355
税金等調整前四半期純損失(△)	△59	△2,465
法人税等	△132	△112
四半期純利益又は四半期純損失(△)	73	△2,353
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△19	11
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	93	△2,365

## 四半期連結包括利益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	73	△2,353
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△657	810
為替換算調整勘定	△113	△172
退職給付に係る調整額	433	8
持分法適用会社に対する持分相当額	△24	△13
その他の包括利益合計	△361	632
四半期包括利益	△288	△1,720
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△277	△1,732
非支配株主に係る四半期包括利益	△10	12

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計上の見積りの変更)

退職給付に係る会計処理における数理計算上の差異の費用処理年数について、従業員の平均残存勤務期間が短縮したため、第1四半期連結会計期間より費用処理年数を一部の海外連結子会社は9年から8年に変更しました。

この変更により、当第2四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益は、それぞれ61百万円減少しております。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	紙・パル プ事業	イメー ジ ング事業	機能材 事業	倉庫・ 運輸事業	計				
売上高									
外部顧客への売上高	71,640	13,953	6,820	2,518	94,932	2,400	97,333	—	97,333
セグメント間の内部 売上高又は振替高	2,062	2,737	1,365	1,466	7,632	2,194	9,827	△9,827	—
計	73,702	16,691	8,186	3,984	102,564	4,595	107,160	△9,827	97,333
セグメント利益 又は損失(△)	126	△197	457	67	453	75	528	△16	512

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、エンジニアリング業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額△16百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△0百万円、セグメント間取引消去△16百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	紙・パル プ事業	イメー ジ ング事業	機能材 事業	倉庫・ 運輸事業	計				
売上高									
外部顧客への売上高	58,621	11,125	5,827	2,286	77,861	810	78,672	—	78,672
セグメント間の内部 売上高又は振替高	2,763	1,617	1,129	1,350	6,861	1,954	8,815	△8,815	—
計	61,385	12,743	6,957	3,637	84,723	2,765	87,488	△8,815	78,672
セグメント利益 又は損失(△)	△1,277	△1,592	524	45	△2,299	△35	△2,335	△51	△2,386

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、エンジニアリング業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額△51百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△0百万円、セグメント間取引消去△51百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。